

令和7年度第1回小牧市青年の家運営委員会議事要旨

【日時】 令和7年7月8日（火）午前10時～午前11時

【会場】 小牧市青年の家講義室

【出席者】 鈴木委員長、林委員、橋本委員、丹羽委員、船橋（早）委員、
船橋（鐸）委員

【事務局】 川尻こども未来部長、野田こども未来部次長、小川課長、若林係長、
岡野（こまき市民文化財団）坂本チーフマネージャー、川中

【傍聴者】 なし

【議題】 （1）令和6年度青年の家利用状況について

（2）令和7年度青年の家事業計画及び中間報告について

（3）青少年事業について

【会議内容】

1 あいさつ

（川尻部長）

皆様には日頃から青少年健全育成に格別のご配慮を賜りましてありがとうございます。さて、昨年度に説明させていただきました通り、青年の家につきましては、今年度末をもって閉館することになります。誠に残念ではありますが、今年度が最後の1年となります。

本日の会議では、昨年度の利用状況と今年度の事業計画についてご意見をいただくこととなります。皆様の意見を踏まえながら、最後まで無事に運営し、この建物の60年を超える歴史に幕を閉じていきたいと考えておりますので、本日もよろしくお願いいたします。

【委員の互選により、鈴木委員が委員長に就任】

委員長あいさつ

（鈴木委員長）

青年の家は市民にとっていろんな研修があったりイベントが開催されたりしている公共の場だったと思いますが先ほど川尻部長からも、今年度末で閉館というような決定をしているということです。

今後の青年の家の活動をどうしていくということも検討していきたいと思えます。

どうぞよろしくお願いいたします。

2 議題

（1）令和6年度青年の家利用状況について

資料にもとづいて説明

（丹羽委員）

前年度と比較して変わったところがあれば教えてほしい。

（事務局）

下段のところに前年度比でマイナスがありますが、これは令和5年と6年を比較

したものになる。

マイナスになるのは、宿泊人数や宿泊日数が少ない場合もしくは青少年団体の利用が少ない場合に生じることが多い。

特に青少年団体では、ボーイスカウトが多く利用するか利用しないかによってこの増減が考えられる。

(2) 令和7年度青年の家事業計画及び中間報告について
資料に基づいて説明

(林委員)

小牧山で遊ぼう小牧山親子ラリーの参加人数は何人ぐらいだったのか。

(船橋(鐸)委員)

2日間で親子がおよそ150組から160組ぐらいだったと思う。

申し込みは親子単位でしかできない。1組当たり2人で参加するときもあるし、3人、4人のときもある。

(林委員)

学習室の開放について、冷房などの準備で部屋の環境は管理していると思う。

図書館やワクティブこまきのフリースペースが中高生でいっぱいである。その一方で、青年の家で準備していても誰も来なければ、余分な経費が掛かってしまうので、その点を見通してもらえるとよい。

(事務局)

以前図書館から青年の家が空いているかという連絡をいただいた。ただ、宿泊者が優先になるため、利用者があるときは利用できないため、事前に電話をくださいと言っている。

以前突然来られて利用できなかったこともあったため、そういうことを図書館にお願いしている。

(丹羽委員)

寺子屋の周知方法を教えてほしい。

(事務局)

財団のホームページやチラシ、学校の各クラスに1枚チラシを配布した。

(橋本委員)

青年の家閉館後の体験等の受け皿をあと1年で、考えてほしい。青年の家でなくても、別のところで受け入れがあれば、今から新しい場所でやってもらってもよいと思う。

(委員長)

それについてはこの後協議していきます。

(3) 青年の家の今後について
資料にもとづいて説明

(丹羽委員)
閉館後アイトワはどこに移動するのか。

(事務局)
中部公民館に移動するということで、調整していると聞いている。

(林委員)
市民まつりの際、去年はジュニア奉仕団が元気村の各ブースに入って活動して体験する姿が喜ばれたので、そういうのにもイベント企画隊が入ってもらえるといいと思った。
もし何もなかったらそういうのにも入っていただいて活動してもらうのも1つの方法かなと思った。

(事務局)
イベント企画隊の活動としては、既に市民まつりの元気村にブースを1つ持っており活動している。他に春祭りをするというのが主な活動になっている。

(船橋（早）委員)
青年の家イベント企画隊について、新しく入ってくる子たちが今全くいない状況である。現在登録メンバーの名称が記されてはいるが、活動している子は1名しかいない状況なので、今後の活動としてはちょっと難しいかなあと思う。

(船橋（鐸）委員)
青年の家ができて約60年。そのあと、20年から30年の間は、各市町村が青年の家のような宿泊施設を作ってきた。しかし、今残っている所がほんのわずかになってしまった。
青少年の活動が、いろいろなところでやれるようになったということももちろんあると思うが、昔からある青少年の活動そのものをサポートする場所がだんだんなくなってきたということは、どのように捉えたらいいかが非常に難しい。
いろいろな講座があるが、青年の家がなくなることによって活動の一部は、中部公民館など別の公共施設などへ移っても行えるものもあるが、小牧山の自然を生かした活動というのができなくなる。例えば天気ならどこでもやれるが、行事を設定して、雨が降った場合にどうするかというのが、青年の家がある場合には何とでもなるが、これから青年の家という拠点がなくなってしまうと、そういう行事や企画が非常に難しくなる。

(委員長)
寺子屋は講師となる元教師と相談が必要ではあるが、中学生を対象とした学習支援事業「駒来塾」に小学生の居場所を作ることは難しいのか。
寺子屋は今年、すでに定員いっぱいになるほど人気があるというお話だったので、駒来塾を小学生も対象にできれば、子どもたちの居場所づくりになるかなと思

う。

(事務局)

駒来塾の運営委員会があり、そちらでも小学生向けにやったらどうかというご意見は過去にもあった。

しかしながら、まずは中学生が勉強するには一番重要な時期というふうに捉えており、その中学生向けの活動がきちんとできることが第一優先ということで、今のところ考えている。

講師もたくさんいるわけではなく、教える方を探すのも苦慮しているところもあるので、なかなか小学生まで広げることが難しい状況である。

(委員長)

教えられることも必要だが、中学生が小学生に教える（アウトプットする）ことで自分の学力が上がり、学力が定着していくという利点もあると思うので検討してほしい。

3 その他（事務局）

次回、第2回の会議は2月頃の予定。

以上を持ちまして、令和7年度第1回青年の家運営委員会を閉会します。